

令和 元年度「校庭芝生化地域連携事業」実績報告書

区市町村名 東京都青ヶ島村

学校名 青ヶ島村 立 青ヶ島小中学校

1 事業目的 協議会名 青ヶ島小中学校校庭芝生化推進協議会

学校と地域が連携・協働した芝生の維持・管理及び活用等の仕組づくりを推進することを通して、子供の心身の成長・発達や地域の教育力向上を目指す。

2 主な取組と成果

学校と地域が連携して行う、年間を通した校庭緑化が定着してきたことで、青ヶ島村民の理解が進み、村民が学校に対してより協力的になったので、全村民の6割以上の参加のもと、村民による校庭播種を実施できた。事後アンケートでも、恒例行事となってきたことを喜ぶ声が聞かれた。

学校の部活の時間だけでなく、地域のサッカークラブの練習後にも、土壌整備や播種、除草の活動を定期的に行う実施してもらうようになり、地域と協働した活動をさらに進めることができた。

その日に行う作業の理由や目的をしっかりと説明したことで、学校の児童・生徒に対しても、目的意識をもって作業に取り組むことができ、作業日でなくとも芝に配慮が見られるようになった。また、播種のやり方を変えたことで、苗の定着率が向上した。

学校内では、芝生の担当者でなくとも、意欲的に作業に加わる職員の数が増え、校庭芝生化の作業スキルが向上している。

3 取組内容



「冬に向けてみんなで種まき！」

- ・令和元年9月22日(日)
- ・参加者120名
(うち小中学生児童生徒10名・学校教職員21名)
- ・運動会の閉会式後のイベントとして、参加者全員で冬芝の播種を実施。

「保護者やサッカー愛好者による校庭整備」

- ・通年(写真の日は9月)
- ・15名ほど
- ・校庭整備(播種・砂まき・種まき・砂ならし等)
(保護者+児童・生徒+青ヶ島中学校サッカー部+スール青小サッカークラブ(青ヶ島のフットサルチーム)+学校職員+地域のサッカー指導者・愛好者)



「子供たちによる芝生づくりと補植・手入れ」

- ・通年
- ・29名(児童5名 生徒5名 教員19名)
- ・ポット苗・プランター苗を作り補植、エアレーション、草取り
- ・作業の理由などをしっかりと説明した上で、子供も目的意識をもって取り組む。

4 今後について

・1日の中でも天気の変動があり、天気を予測することが難しい。芝刈り・補植など、複数の人数で一斉に作業をしたいときなど、日程を合せても実施できない日が多かった。事前に綿密な計画を立て、共通理解を図り、当日の天気を見て、臨機応変に対応できる体制を作っていく。

・来年度はメンバーの大幅な入れ替えが見込まれるため、これまでに培ってきた技術の引継ぎと、新たな体制づくりをしていく。

・補植に必要なポット苗づくりの作業工程を見直し、本校に合った有効な方法を見つけ出した。生育した苗を植えても、定着する前に校庭使用時に掘り起こされてしまうことが多かったが、掘り起こされにくい植え方を試し、効果が見られた。より効率的で確実な方法を確立していきたい。